令和２年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

# 事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

## 学校名【　弥富市立十四山東部小学校　】

| | |
|---|---|
| １ 実践テーマ | 【　Ⅲ・Ⅴ　】 |
| ２ 実施対象者 | 弥富市立十四山東部小学校　全校児童１３７名 |
| ３ 展開の形式 | ⑴　学校における活動<br>①　教科名（特別活動(１・２年)、総合的な学習の時間(３～６年)）<br>②　行事名（①日福大とのオンライン授業、②パラスポーツ体験）<br>③　その他（　　）<br>⑵　地域における活動<br>①　イベント名（　　）<br>②　その他　（　　） |
| ４ 目　標<br>（ねらい） | ・　視覚に障害があってもできるように工夫された競技や、競技者を支える役割を知り、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さについて考える機会とする。<br>・　実際にパラスポーツを体験することを通して、障害者や障害者スポーツについての理解を深め、東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。 |
| ５ 取組内容 | ⑴　「日福大とのオンライン授業」<br>【事前準備】<br>・　大学とメールでの情報交換や事前打合せ会を開き、授業の進め方を検討した。<br>・　大学と各教室がオンライン（Zoom）でうまくつながるか事前の確認をした。<br>・　オンライン授業やパラスポーツ体験で使用する用具を大学から借りた。<br>【実践】<br>・　先生役の大学生が質問を交えながら分かりやすく授業を展開してくれた。また、映像やプレゼンテーションを巧みに使い、子どもたちの関心を高めた。<br>（内容）・オリンピック、パラリンピックについて<br>・「ゴールボール」について<br>・「ガイドランナー」について<br>・「ガイドランナー」の疑似体験 |

| | |
|---|---|
| | <br>⑵　パラスポーツ体験（ゴールボール）<br>【事前準備】<br>・　職員に、「I'm POSSIBLE」のゴールボールに関する資料を配付し、DVD 資料を視聴し、体験内容の確認をした。<br>・　ゴールボール用のラインを体育館に引いた。<br>【実践】<br>・　最初はアイシェードなしで、ボールを投げたりキャッチしたりする練習をして、感覚をつかませた。その後チームに分かれ、役割分担をして、アイシェードを実際に着用して、ゲーム形式で、ゴールボールに取り組んだ。<br>・　実際に体験した感想を発表し、お互いの思いを共有した。<br> |
| ６ 主な成果 | ⑴　「日福大」とのオンライン授業<br>・　「ゴールボール」というパラスポーツや「ガイドランナー」という役割を知ることで、障害者スポーツへの理解が深まった。<br>・　「ガイドランナー」の疑似体験を通して、視覚障害についての理解が深まった。<br>⑵　パラスポーツ体験<br>・　実際に「ゴールボール」を体験し、スポーツとしての楽しさを味わうことで、パラスポーツへの関心が高まった。<br>・　目の見えない不自由さを体験することで、どんなことが視覚障害者の妨げになり、視覚障害者を支えるには、どんなことに配慮すればよいのかを実感することができた。 |
| ７ 実践において工夫した点（事業の特色） | ・　コロナ禍の中で、オンライン授業という形に取り組み、双方向のやり取りなど、成果が見られた。<br>・　授業（講話）だけでなく、体験活動を行った。<br>・　実際に競技で使う用具を使用した。 |

| | |
|---|---|
| ８ 主な課題等 | • 計画書で予定していた「車いすバスケ体験会」、「あすチャレスクール」が感染症対策で実施できず、困惑した。<br>• 今年度は実施できなかったが、「車いすバスケ体験会」でゲーム体験をするために講師の数を増やすと、それだけ講師料が必要になるため、予算措置がないと開催が難しい。 |
| ９ 来年度以降の実施予定 | • 障害者スポーツについて学んだり体験したりすることは、福祉実践教室などとは違う側面から福祉について体験を通して学ぶ機会になるため、継続して取り組んでいきたい。 |